

私立大学におけるインクルーシブ教育を組み込んだ 教員養成カリキュラム開発に関する研究 (3)

－学部2年生時から卒業まで実施された実習等を終えた
教職課程履修アンケートから－

A study on teacher training curriculum development that incorporates the inclusive education in private universities (3)

－ From the questionnaire on the teaching curriculum
which finished practical training etc. which was carried out
from undergraduate 2nd grade until graduation －

野 村 勝 彦 (作新学院大学人間文化学部)

概 要

前の報告で、本学での介護等体験に焦点を当て、カリキュラム開発の重要な視点を探った。今報告では、学部2年生時から卒業まで実施された実習等を終えた教職課程履修生にアンケートを実施し、カリキュラム及び授業改善への手がかりを検討した。その結果、介護等体験ノートの精密な分析の必要性や、介護等体験(特別支援学校)から得られた経験の振り返る機会の設定、ボランティア活動の分析などが、教育実習との関係において重要であることを見いだした。

キーワード：私立大学教育、教員養成カリキュラム、インクルーシブ教育、教職課程での諸実習

I. はじめに

平成30年4月1日現在、新規に「特別支援学校教諭(一種／専修免許状)」が取得できる大学・大学院は、以下に示した通り(新規課程申請)である。①山梨県：都留文科大学教養学部学校教育学科(一種免許：知的・肢体不自由・病弱)、②島根県：島根県立大学人間文化学部保育教育学科(一種免許：知的・肢体不自由・病弱)、③栃木県：本学人間文化学部発達教育学科(一種免許：知的)、④埼玉県：聖学院人文学部児童学科(一種免

許：知的)、⑤福岡県：九州産業大学人間科学部子ども教育学科（一種免許：知的・肢体不自由・病弱）、⑥（大学院）福井県：福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科教職開発専攻（専修免許：知的・肢体不自由・病弱）、⑦（大学院）岡山県：岡山大学教育学研究科（専修免許：知的・肢体不自由・病弱）、⑧高知県：高知大学総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻（専修免許：知的・肢体不自由・病弱）。

教職課程を新設に設置した大学・大学院は、必然的に教育実習の場を確保しなければならない。本学の場合、人間文化学部の課程編制（今年度入学した1年生から発達教育学科・心理コミュニケーション学科の2学科制）を行った結果、2年生から4年生は、基礎免許（小学校か中学校・高校）に加えて特別支援学校免許が取得可能である。そのため、4年生約10名が特別支援学校での教育実習が進行中であり、3年生約10名、2年生約30名、1年生が約30名予定されている。出身地の都道府県において特別支援学校での教育実習が原則であるが、これまでの教育実習では、10名程度であり、出身都道府県での教育実習が実施されたため、栃木県内の特別支援学校（知的障害）は10校（高等特別支援、分校を含む）で、他大学の教育実習生が多くない場合は、受け入れていただいていた。しかし、教育実習生が30名規模になった場合、その実習先の確保が困難となることが予想される。

そこで、今回の報告では、特別支援教育の課程を履修した卒業生の一部に、本学で行ってきた諸実習等に関するアンケートを実施し、カリキュラム開発や授業改善を含めた研究基礎データを得ることを目的とする。

II. 本学における教職に関する教職課程の流れ

表1に、本学での教職の履修（作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部）に関する流れを示した。

			小学校の免許	中・高等学校の免許	幼稚園教諭免許・保育士資格
			●教職課程説明 ●「教職初期指導」 ●教職課程の授業開始 ●教職実践センター研究会 ●宇都宮大学教育学部附属小中学校公開研究会参観 ●宇都宮市内小中学校の公開授業参観(1～4年)	●介護等体験実習(小学校教員免許取得者) ●観察実習(小学校教員免許取得者) ●清原地区内4小学校2日間、11月、12月	4月 幼稚園実習Ⅰ(9月)調査 保育実習Ⅰ(2月) 5月 幼稚園実習Ⅰ(9月)調査記入 6月 就職ガイダンス①「学生生活と就職活動」 8月 幼稚園実習Ⅰ(9月)説明会 幼稚園実習Ⅰ(9月)事前指導 9月 幼稚園実習Ⅰ 事後指導 幼稚園実習Ⅱ(次年度6月)調査 就職ガイダンス②「登録票・個人面談」 10月 保育実習Ⅰ(2月)調査記入 11月 保育実習Ⅰ(次年度6月)調査 12月 保育実習Ⅰ(次年度6月)説明会 就職ガイダンス③「内定者報告会」 2月 保育実習Ⅰ
1年			●「教職総合指導」 ●教職実践センター研究会 ●宇都宮大学教育学部附属小中学校公開研究会参観 ●宇都宮市内小中学校の公開授業参観(1～4年)	●教育実習(出身中・高等学校) (経営学部で出身高等学校に商業科がない場合には相談の上決定)	4月 幼稚園実習Ⅱ(6月)説明会 5月 施設実習 調査記入 6月 幼稚園実習Ⅱ(6月)事前指導 キャリア・就職支援課個人面談 幼稚園実習Ⅱ 就職ガイダンス④「履歴書の書き方・マナー」講座 幼稚園実習Ⅱ 事後指導 就職ガイダンス⑤「栃木県幼稚園教諭採用説明会事前説明」 保育実習Ⅱ 施設実習 9月 保育・教職実践演習 1月
2年			●教育実習(中・高教員免許取得者、出身中・高等学校、商業の免許で、出身高等学校でない場合には相談の上決定) ●教員採用試験 ●教職実践センター研究会 ●特別支援学校教育実習(出身都道府県内の特別支援学校) ●宇都宮大学教育学部附属小中学校公開研究会参観 ●宇都宮市内小中学校の公開授業参観(1～4年) ●県教委・市教委からの採用試験・臨時採用関係の説明会 ●「教職実践演習」(小学校、中、高)		

表1 教員を目指す学生の主な学び

1. 小学校免許

小学校免許取得では、2年生から「介護等体験」実習が始まる。合わせて地域にある小学校への2日間の「観察学習」がある。3年生で小学校での教育実習があり、教員採用試験模擬試験も実施される。4年生で特別支援学校の教育実習がある。また教員採用試験も夏頃実施される。

2. 中学校・高等学校免許

中・高免許では、3年次に「介護等体験」実習（中免許のみ）、また教員採用試験模擬試験が実施される。4年次で中・高での教育実習、教員採用試験が行われる。

Ⅲ. 教育実習と諸実習等に関するアンケート調査

1. 方法

① 調査対象者

201X年度に小学校教員免許／中学校教員免許及び特別支援学校教諭免許を取得した卒業生5名である。アンケートは10名に対して行ったが、回収は分析対象の5名（回収率50%）であった。

② 調査手続き

201X年度末に、手渡しもしくは郵送にて回答を依頼し、4ヶ月間に手渡しもしくは郵送にて回収した。回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報としては公表されない旨を伝え確認している。

③ アンケート調査の概要

主なアンケートの内容は、以下の通りである。(1) 小学校教員免許：観察学習（2年生）が教育実習（小学校）に役だったか、(2) 介護等体験（2・3年前期・後期）は役だったか（特別支援学校・社会福祉施設）、(3) 小学校／中学校の教育実習は役だったか、(4) 知的障害児教育法1の授業（講義・障害擬似体験）は役だったか、(5) 知的障害児教育法2の授業（講義・模擬授業）は役だったか、(6) 特別支援学校教育実習は役だったか、(7) 教員採用試験受験の有無、(8) 教員採用模擬試験受験の有無、(9) 教職課程科目で教育実習に役立った授業、(10) 教職課程科目以外で教育実習に役立った授業、(11) 教育実習の事前指導としてどんな授業があると良かったか。

項目（1）から（6）については5件法（すごく役立った～あまり役立たなかった）で回答を求め、（9）～（11）は自由回答を求めた。なお、5件法で回答をした理由についても質問している。

2. 結果

①観察学習

A すごく役だった	1	A の理由：見学で学校の雰囲気等、教育実習イメージが容易になった。
B やや役だった	3	
C 変化なし	1	B の理由：1日の流れが知れた。教育現場の雰囲気を把握できた。現場を知れたが、短時間で教員や児童の関係が深まらず、不安もあった。
D やや役立たなかった	0	
E あまり役立たなかった	0	

②介護等体験

-1 特別支援学校

A すごく役だった	2	A の理由：特別支援学校の現場を知れた貴重な体験。特別支援教育学習（知識）後で、実際に身についた。
B やや役だった	3	
C 変化なし	0	B の理由：担任と密にコミュニケーションが取れ学べた。教育実習時の心構え・注意点を事前に知ることができた。実習の目的が明確になった。
D やや役立たなかった	0	
E あまり役立たなかった	0	

-2 社会福祉施設

A すごく役だった	0	B の理由：高齢者と関わる経験（観察と利用者に役立つ動き）は貴重。コミュニケーション能力養成。他施設との差があると感じた。成人が相手に戸惑いがあった。障害を持つ人への対応のイメージをもつことができた。
B やや役だった	4	
C 変化なし	1	C の理由：これまで関わりがない方のため、良い経験。
D やや役立たなかった	0	
E あまり役立たなかった	0	

③小学校 / 中学校教育実習

A すごく役だった	5	A の理由：教員が自分に合う職か等を確認。学校生活を知り、教師職について考えることに役立つ。教師の仕事、児童の接し方を学べた。教師職に就いたイメージが明確になった。子どもの前に立つ大変さや楽しさを感じ、将来のことを考えるきっかけとなった。学級運営等学ぶ。
B やや役だった	0	
C 変化なし	0	
D やや役立たなかった	0	
E あまり役立たなかった	0	

④知的障害児教育法 1

A すごく役だった	4	A の理由：基礎知識を得る・困り感と支援を知った。障害者ではなく人として接する大切さに気づく。障害の理解・対応の総まとめ、知識の整理に役立った。生活で困難なことを知り、気をつけたいことをイメージできた。 B の理由：自分が困る場合を知り、実習対策ができた。
B やや役だった	1	
C 変化なし	0	
D やや役立たなかった	0	
E あまり役立たなかった	0	

⑤知的障害児教育法 2

A すごく役だった	2	A の理由：模擬授業で、進行・言葉かけ等のイメージができ役だった。注意すべき点をイメージできた。 B の理由：模擬授業は賑やか環境だったが、実際は静。模擬授業内容が直接教育実習で活かされたかは微妙。教育実習を意識して授業計画・実施ができた。
B やや役だった	3	
C 変化なし	0	
D やや役立たなかった	0	
E あまり役立たなかった	0	

⑥特別支援学校教育実習

-1 教材研究

A すごく役だった	4	A の理由：視覚教材だけでなく聴覚的な教材の活用。大学での教材研究は大切（共有化）。どんな教材使用で伝わりやすいか考えることが出来た。子どもの興味関心を探るのが大変だったが良い経験になった。 B の理由：実習校書式のため苦労した。
B やや役だった	1	
C 変化なし	0	
D やや役立たなかった	0	
E あまり役立たなかった	0	

-2 指導計画立案

A すごく役だった	1	A の理由：大学の模擬授業は仮想だったが、本実習では、様々配慮すべきなので、役だった。 B の理由：指導案（手立・留意点）の書くコツを理解。 D の理由：短期で担当者に肉づけ・正しい書き方が未消化。学校によって書式が異なり、児童に合わせた指導計画となっていた。
B やや役だった	3	
C 変化なし	0	
D やや役立たなかった	1	
E あまり役立たなかった	0	

-3 学習指導・評価

A すごく役だった	1	A の理由：自己評価後の話し合いで役だった。 B の理由：個にあった課題設定・評価は難しいが、特別支援の要と感じた。課題が明確になった。 D の理由：指導・評価の時間がもっとあると良い。
B やや役だった	3	
C 変化なし	0	
D やや役立たなかった	1	
E あまり役立たなかった	0	

-4 勤務・実習意欲

A すごく役だった	2	A の理由：特別支援学級担任を熱望。教師の時間外の仕事について知ることができた。 B の理由：介護等体験と同学校のため子どもの成長が見られ嬉しかった。自分の気持ち・心がまえを持ち、子や教師から学ぶべきかを知り、考えることができた。社会人としての態度等を学べた。
B やや役だった	3	
C 変化なし	0	
D やや役立たなかった	0	
E あまり役立たなかった	0	

⑦教員採用試験受験

A はい	3
B いいえ	2

⑧教員採用模擬試験受験

A はい	3
B いいえ	2

⑨教育実習に役立った教職科目

・知的障害児教育法（1・2）	5
・道徳教育法（初等）	4
・国語科教育法（初等）	3
・発達障害児の心理と教育	3
・知的障害児・者心理学	2
・教育実習事前・事後指導（小）	2
・体育科教育法	1
・教職実践演習（初等）	1
・教育実習事前・事後指導（特支）	1
・英語科教育法（1・2・3）	1

⑩教育実習に役立った教職以外の科目

・ キャップ・ストーン (1・2)	3
・ 発達心理学	2
・ コンピュータ・リテラシー	1
・ 心理検査実習	1
・ 英語 A・B	1
・ 社会科教育論	1
・ 日本語表現法 1	1
・ 憲法入門	1
・ 文章表現法	1
・ 英語 (C・E・F)	1
・ 学習心理学	1
・ 基礎心理学	1

⑪教育実習事前指導への希望

- ・ 指導案を書く授業や模擬授業のある授業
- ・ 先輩の教育実習をしている映像
- ・ 実習の1日の流れが分かる授業 (様々な学校)
- ・ 各科指導法での教材開発
- ・ 指導案 (細案) を書くことの出来る授業

3. 考察とまとめ

①観察学習について

観察学習は、近隣地区の小学校へ2日間通い、教師の活動を観察、補助する活動を行うものである。概ね役立ったと回答している。初めての小学校の学級に1日フルで参加する体験は、子ども達や教師とのコミュニケーションを取る良い機会でもあるが、活かしきれないケースもあった。

②介護等体験について

(1) 特別支援学校

全員役立っていると回答があり、学生にとっては特別支援学校での教育実習への前準備 (実体験) として意識化されている。

(2) 社会福祉施設

概ね役立つと回答があったが、身近に高齢者がいない学生にとっては、大学内では経験できないものとして意識されている。

③小学校／中学校での教育実習

専攻の違いに限らず、全員が役立つと回答した。3年生で経験するため、教師職に就いた自分をイメージし、4週間という長い期間に子ども達との触れ合いや、先生方との関わ

りで、教職に就くことが強く意識されている。

④講義：知的障害児教育法1

3年次前期に受講する授業である。この授業で合格することが、特別支援学校での教育実習に参加できるかが問われる試金石となっている。特別支援教育のこれまでの復習と、知的障害児についての教育を学ぶ場であるが、障害の擬似体験を課しているため、受講生全員が身をもって障害児の困り感や支援の在り方を理解していることがわかる。

⑤講義・演習：知的障害児教育法2

3年次後期に受講する授業である。特別支援学校での教育実習の事前準備として、指導案作成や模擬授業を体験する授業である。全員役だったと回答しているが、模擬授業で、児童生徒役に学生が扮するため、必ずしも学びが深まっていない側面もあったようだ。

⑥特別支援学校教育実習

(1) 教材研究

役だったと全員が回答。視覚教材の活用など指導法は効果があったようである。一方、指導案は、練習したものとは異なる学校独自の書式であるため、大学内では模擬授業の際に、実習校書式で行う必要があるといえよう。

(2) 指導計画立案

概ね役立ったと回答。(1)と同様、書式の問題を考慮する必要があり、模擬授業の際、学習者は最低2回MT(T1)を行うこと及び指導案を作成できるように設定していくことが求められる。

(3) 学習指導・評価

概ね役立ったと回答。指導・評価の時間を更に設けるとのことだが、検討が更に必要であろう。大学内での授業研究会・反省会の工夫を考えてみたい。

(4) 勤務・実習意欲

全員役だったと回答。「介護等体験」実習校と同じ学生がいたため、効果が明快であった。

⑦教員採用試験受験 及び ⑧教員採用模擬試験受験

模擬試験受験者が、教員採用試験も受験していた。

⑨教育実習に役立った教職科目

多岐にわたっている様子が理解される。多くの科目に模擬授業等体験型授業が実施されており、教壇に立つ経験が増えたことが推測される。

⑩教育実習に役立った教職以外の科目

これも多岐にわたっている。どんな点が役立ったのか詳細な質問と分析が必要である。

⑪教育実習に向けての新たな事前指導について

指導案を書く経験をさらに希望しており、教職科目の中での工夫が必要であろう。

IV. おわりに

本研究は、教育実習と諸実習等に関するアンケートから、教職課程における特別支援教育の一部科目の授業内容及び諸実習について検討を行った。

別府 (2018) は、介護等体験の事前事後アンケートの結果から「学生が感じ取ったことや内面の変化をより丁寧に分析するためには、介護等体験ノートの分析が必要と考えられる」とし、「特に、特別支援学校における体験は特別支援教育への理解を促すものであり、インクルーシブ教育時代の教員の資質向上に寄与する取組であると位置付けることも可能なのではないかと考えられる。ただし、そのためには体験だけで終わらせず、前述のような振り返りの機会を設定することや、大学等のカリキュラムと関連性を持たせることが必要であると考えられる」と、教職課程カリキュラムの関連性を吟味する必要性があることを指摘している。

本研究では、野村 (2017) が介護等体験ノートについて言及したが、十分な分析まで至ってはいない。今後の課題にしたい。

また、齊藤 (2016) は、「教育実習以外の体験活動（ボランティア活動やインターシップ等）を積極的にカリキュラムに導入する方向にある」ことから、「ボランティア経験が教育実習に及ぼす効果と期待について、次の5点を提示」している。1. ボランティアは主体的活動の源泉となること。2. ボランティアの対象は多種多様であり、見知らぬ人との交流やコミュニケーション力を必要とすること。3. ボランティアはアプローチが多様で、柔軟さを求められること（多様なアプローチを持つ授業づくりに向けた技術力・実践力が教育実習にも繋がる）。4. ボランティアは、自分とは何か、自分は何になりたいのか、異質な他者との出会いから多くの気づきと自信を与えてくれる（実習前に、ボランティア活動によって「役に立つ自分」や「必要とされる自分」を発見したり、『不甲斐ない自分』を自覚・葛藤したり、様々な自分を知る機会が得られる）。5. ボランティアによって、子どもと大人の仮想世界の現実を知り、地域や社会に対する客観的な目を養うことになる。これらのことから「ボランティア経験は教育実習のいずれの段階（準備段階、実施段階、事後段階）においてもインタラクティブな取り組みに有効である」と指摘している。本研究では、ボランティアについては質問項目に設けていなかったが、実際には、地域の夏季キャンプ、地域の特別支援学校が開催しているボランティア講座などに参加している教育実習生が一定数いるのが実情である。今後、調査項目に入れて検討したい。

今回の結果から、授業の改善によって行える点も見えてきた。テーマ「私立大学におけるインクルーシブ教育を組み込んだ教員養成カリキュラム開発に関する研究」は、まだ多くの切り口がある。

来年度から、教職課程に「特別支援科目」が必修化されたカリキュラムが実施の段階に

来ている。文科省（2017）「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解：教職課程コアカリキュラム－教育の基礎的理解に関する科目」では以下の様に記されている。

「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」（必修・1単位以上）

全体目標：通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解

一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。

到達目標：

- 1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。
- 2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。
- 3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障がいのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。

(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法

一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。

到達目標：

- 1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。
- 2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。
- 3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。
- 4) 特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。

(3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援

一般目標：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。

到達目標：

1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的対応の必要性を理解している。

今後、実施されたカリキュラムと学生がどのように受けとめ学習がなされたかについての資料を得て、検討していきたい。

文献

- 別府さおり (2018) 事前・事後アンケートからみる介護等体験の成果と課題－インクルーシブ教育時代の介護等体験のあり方への示唆－ 1 東京成徳大学教職課程年報 11-28.
- 今野邦彦・池田浩明・小川透 (2017) 特別支援学校の教育実習における学生の意識について (3)－教育実習生のアンケート調査から－ 藤女子大学人間生活学部紀要 54 97-103.
- 野村勝彦 (2016) 私立大学におけるインクルーシブ教育を組み込んだ教員養成カリキュラム開発に関する研究 (1)－本学実施に向けての基礎的調査－ 作大論集 6 147-172.
- 野村勝彦 (2017) 私立大学におけるインクルーシブ教育を組み込んだ教員養成カリキュラム開発に関する研究 (2)－介護等体験と特別支援学校教育実習への連携について－ 作大論集 7 83-109.
- 文部科学省 (2017) 「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」：教職課程コアカリキュラム－教育の基礎的理解に関する科目.
- 小方朋子・木下博美 (2009) 教育実習改善のための取組とその展望－教育実習及び事前事後カリキュラムの開発－ 香川大学教育実践総合研究 19 65-70.
- 齊藤ゆか (2016) ボランティア経験が教育実習に及ぼす効果と期待 神奈川大学心理・教育研究論集 39 : 65-70.
- 竹中暉雄 (1983) 「教育実習による教職課程履修学生の意識変化」『総合研究年報 (桃山学院大学)』9(1) 21-44.

